

節分

節分の日、スーパーに豆を買いに行った。「鬼は外、福は内」と投げた後のことを考えると落花生が一番手頃である。店内を探すと、特設コーナーに袋詰め落花生が山盛りになっている。近づいたら、オバさんがもう一人のオバさんに話しかけていた。「どうする？」「そうねえ」「やめる？」「やめとくわ」「そうよねえ」二人とも買わずにその場を離れていった。その袋には、赤いラベルに「中国産」とはつきりうたってあった。今、世情は中国産のギョウザの話でもちきりである。人為的な事件の様相が強まった。それにしても、薬物入りの食品がこんな簡単に簡単に流通することに恐怖を感じる。昔、G事件があつた。あの最中、仕事を終え帰宅途中、コンビニで手にした品物がG食品のものだったため、買おうとしてやめたことを思い出した。「やっぱり止しておくわ」

大丈夫と思いつつも、手にした品物を棚に戻し、店のおかみさんに目を向けると「困ったもんです」と顔を曇らせている。こんな店の人があちこちにいると思うと可哀そうになった。食品には匂がある。取り扱うタイミングがある。落花生も、節分と言う行事に備え、集中的に、流通業者、販売店は商品計画の下、集めて大量の在庫を抱えたことだろう。そして今回の、ギョウザ事件は現在、日中共同で捜査を進めており、いずれ真相はハッキリするだろうが、それまでの間は疑惑の眼差しが寄せられ続けることは間違いない。応が起きている。中には、風評被害を被つている物もあるだろうが、これだけの状況をもたらされれば当然のことだ。うか迷ったものの、この騒ぎの中で店が堂々と販売しているのだから、今回は買い物力ゴに入れた。そして、その夜お酒のつまみとなつて腹に入つた。「鬼は外、豆は腹」